



天満宮

題字／後西天皇御宸筆

季刊
秋号

平成27年10月
Vol.8

特集

- ◆ 錦秋の「史跡御土居のもみじ苑」公開
- ◆ 「京の七夕」に協賛 「北野七夕祭」を初開催
- ◆ 天神さまと私「北野天満宮と京都文化」

京都文化博物館館長
京都神社総代会会長
元京都府知事

荒巻 禎一

菅公御歌

このたびは

幣もとりあへず手向山

紅葉の錦

神のまにまに

北野天満宮の由来

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国の天満宮・天神社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の乾の地にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満天神」の神号を賜り、さらに朝廷・皇室の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格され国家鎮護・皇城鎮護の神として崇められました。今や天満宮・天神社は全国に約一万二千社と広がっています。

寛弘元年（一〇四）、一條天皇がはじめて行幸されるに及び、以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、将軍家や有力大名の崇敬を受けております。文道大祖・風月本主と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されています。そして菅公薨去延喜三年（九〇三）より百年をかけて北野の天神信仰が誕生致しました。

菅公は、千有余年の長い歴史の中で、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民・一般に至るまで「天神さま」と呼ばれ親しまれてきました。菅公が生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生きています。

現在の御社殿は慶長十二年（一六〇七）豊臣秀吉公の遺命を受けた豊臣秀頼公の造営で、八棟造という豪壮な建築様式を誇り国宝に指定されています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神・天神信仰として篤く信仰されています。



【シンボルマーク】

平安京の乾（北西）に位置する北野の地・天門をイメージし、星欠けの三光門（三辰信仰）から星梅鉢を北極星と捉えた星の軌道と、神社の象徴である一の鳥居を描き、北野天満宮の信仰的特徴を捉えたマーク。

表紙写真 — 「史跡御土居の展望所から望む錦秋のもみじと国宝御本殿」 —

境内西側には紙屋川に沿って豊臣秀吉公が築き上げた土塁「御土居」の一部と自然林が残り、約250本の紅葉とともに錦に染まる。紅葉の合間から一望できる八棟造りの国宝御本殿は見所のひとつである。

御挨拶

紅梅殿こけら落とし「延年の舞」奉納

錦秋 色鮮やかな紅葉が、和と歴史・文化の古都京都を彩る季節となりました。

春、豊臣秀吉公ゆかりの当宮史蹟御土居の青もみじが初めて公開され、紅葉の新鮮な観賞法として多くの方々に好評を得ました。

さて、十月一日より京都に秋を告げる魁の祭り「瑞饋祭」を五穀豊穡、秋の稔に感謝して斎行致しましたが、京都は秋の観光・行楽シーズンを迎え、皆様には京の秋を満喫戴けることと存じます。

当宮では、平成三十九年斎行の千二百二十五年半萬燈祭に向け境内整備工事を進めて参りましたが、お陰様で「北野天神縁起絵巻」の有名な場面、菅公紅梅殿別離の図に因む紅梅殿の移築も無事に完了し、西広場周辺の庭園造りもいよいよ完成の時期を迎えました。十月二十五日、紅梅殿のこけら落としとして、賑々しく歌舞伎役者市川海老蔵丈により、国家安泰、延年長寿を祈る「延年の舞」奉納が行われる予定です。皆様には、御土居もみじ苑の目にも美しい紅葉と共に、面目も一新された紅梅殿と庭を觀賞戴ければ幸甚であります。

本年は、JR東海の「そうだ京都、行こう。」のキャンペーン会場として北野天満宮が選ばれており、例年になく大勢の皆様がもみじ苑の觀賞にお越しになると思われますので、当宮と致しましても天神信仰の更なる宣揚の好機と考え、諸行事に取り組んで参る所存でございます。

また豊臣秀吉公北野大茶湯ゆかりの献茶祭は、十二月一日武者小路千家千宗守宗匠の御当番にて厳肅にまた華やかに境内一円で執り行われますので、茶道愛好者の方々にも、豊かな茶の湯の一日をお楽しみ戴けることと存じます。

今後とも天神信仰の発揚の為、種々の伝統文化・芸能等の活動を行って参る所存でございますので、氏子崇敬者の皆様はもとより、関係各位の温かいご厚情とご理解をお願い申し上げます。

北野天満宮

宮司 橘 重十九



重要文化財 舞楽図「延年の舞」北野天満宮所蔵



京都文化博物館 別館（重要文化財）



北野天満宮と京都文化

京都文化博物館長
京都神社総代会長
元京都府知事

荒巻 禎一

北野天満宮の思い出

通りゃんせ通りゃんせこ、はこの細道
じゃ

天神さまの細道じゃちよいと通してくだ
しゃんせ

御用のないもの通しゃせんこの子の七つの
お祝いにお札を納めに参ります

行きはよいよい帰りはこわいこわいながら
も通りゃんせ通りゃんせ



子供の頃の童べ歌と「子とろ 子とろ」の遊びが思い出される。ドン、ドン、と太鼓の音が風に乗って聴こえて来る。母からもらった十銭玉を握って駆け出す。神社の境内に並んだ露店で、目を輝かせながら食べた赤しゅうがだけが少し乗っているお好み焼き、綿菓子や飴玉の記憶がはつきり目の前に現れる。幼少年の頃の金沢、椿原天神社の思い出である。

総本社・北野天満宮を始め、全国一万二千社といわれる天神社は、人々の中に親しまれ信仰されている。私は福岡の出身なので、太宰府天満宮さんには特に就職祈願に友達とよく行ったものだ。実は西高辻信良宮司は高校の後輩で、その頃生まれられたことは神社本庁の理事で一緒にいる段になって知った。



「北野天神縁起絵巻 平成記録本」の公開（平成21年・全国天満宮梅風会）



国宝御本殿と飛梅

北野天満宮の橘宮司さんは、権宮司のときから、長谷八幡の宮司を兼ねておられ、岩倉の拙宅の横で毎年、大人の神輿や子供の神輿を賑やかに披露して頂いており、二十数年前からお付き合い頂いている。また、私が現在、京都府神社総代会会長をさせて頂いているので、京都府神社庁の幹部としてもご指導を頂いている。

初めは怨霊神から皇城鎮護の神となられ、更に人として初めて神として祀られた菅原道真公は、時を経て皇族、歴代將軍等の信仰はもとより、あらゆる身分の人々の信仰を得た。学問・文芸の神として、特に入学、就職、安全祈願は引きもきらないところである。私も息子や孫のお札をもらいに何度行ったことか。また天神縁日の市には、骨董品好きとして冷やかしも含め、足繁く通っている。天神信仰の存在は、我々の中に今もなお強く深く根付き、生活の中に息づいている。

文化財に見る北野天満宮

一昨年の七月、「北野天神縁起絵巻 平成記録本」の京都初公開を京都文化博物館でやって頂いたことは、館長として光栄なことであった。先述したように、北野天満宮への信仰は、天皇や將軍に留まるものではない。ここでこのことを天満宮が誇る文化財の中から確認してみたい。

近年、重要文化財に指定された「北野西京神人文書（九十九通）」は、南北朝時代から江戸時代にわたる古文書群で、その主要内容は北野天満宮を本所としつつ、広く商業活動を展開した酒麴商人たちに関わるものである。北野天満宮の存在がいかに町衆の中に位置付き、一体的なものであったのかを伝えている稀有な古文書群といえる。

また北野天満宮に関する様々な文化財を眺めると、そのバリエーションの多さに驚く。憤怒の神である道真公が威厳に満ちた雰囲気ですす「東帯天神像」。さらに宴会が張られ、賑わう社頭を描き尽くした「北野社頭遊楽図屏風」。このような祝宴空間の中に阿国は登場し、熱狂的に京都の人々



「束帶天神像」



重要文化財「北野西京神人文書」

に歓迎され、その様子は「洛中洛外図屏風」諸本に描かれている。
 これら様々な作品世界が全て北野天満宮を介して取り結び、豊かな歴史像を構築している。この作品群は今では京都の文化を伝える文化財として広く知れ渡っているが、ここで最も重視したいのは「調和」という言葉である。異なる価値観や概念。これらが北野天満宮の中で位置付くことにより、それぞれの存在が失われることなく、調和する。それは対立するどころか一方を排除するのではなく、それぞれの良さを認めた上で併存させる日本文化の特質とよく通じ合う。

あらゆる対立が存在し選択を迫られる現代、そこに暮らす私たちが、北野天満宮に今学ぶべきは、このような心持ちのあり方ではないだろうか。京都に暮らす我々だからこそ北野天満宮とその信仰に向き合わなければならぬと考える。そしてその信仰により生じる様々な文化現象を京都文化として捉え、広く皆様に伝えていくことが我々京都文化博物館の使命であることを実感している。



重要文化財「北野西京神人文書」酒屋交名



変貌する 北野天満宮

—中世後期の神仏の世界—が
平凡社より出版



中世後期における北野天満宮の歴史に迫る

去る九月九日に平凡社より『変貌する北野天満宮—中世後期の神仏の世界—』が出版された。

武蔵大学名誉教授の瀬田勝哉氏が編者となり、執筆者に京都文化博物館学芸員の西山剛氏ら併せて七名が執筆。四〇〇ページにも及ぶ書籍が完成した。

長い北野天満宮の歴史の中でも、北野天満宮そのものが大きく「変貌」を遂げる時代であった室町時代に焦点をあて、その変貌がどのようなものであったのかを意識的に検討し、史料の読解によって、中世後期の北野社をめぐる空間的構造、社会組織、イメージの在り方と変遷を探った。

多角的に描き出される北野社のありようと変容

本書は文献史料・絵画資料の精読をもとに、方法的に設定された多彩な視覚から、中世後期北野社の歴史的リアリティに迫る、画期的な論集となっている。

本書出版が北野天満宮と天神信仰の研究を更に進める一助となり、更なる天神信仰の発揚に期待が膨らむ。

〈出版情報〉

「変貌する北野天満宮—中世後期の神仏の世界—」

瀬田勝哉編

定価：六、八〇〇円（税別）

◆目次

第1部 空間

瀬田勝哉

「北野に通う松の下道—一条通と北野・内野の風景」

野地秀俊

「北野の馬場と経堂」

菅野扶美

「空間から見る北野天神信仰の特徴」

第2部 組織

鍋田英水子

「中世後期「北野社」神社組織における「一社」

佐々木創

「北野宮寺法花堂供僧の設置—法螺を喜ぶ北野天神のために」

石井裕一朗

「松梅院禅予殺害事件と殿原衆の行動」

第3部 信仰の諸相

西山剛

「室町期における北野祭礼の実態と意義」

飯田紀久子

「天神信仰における牛の由来」

北野天満宮と 厄除信仰

北野天満宮 権宮司

加藤迪夫

平安時代の政治家・文学者菅原道真公をお祀りする北野天満宮。学問の神として全国的に知られていますが、色々な諸相、御神徳をもっているのが北野の信仰、天神信仰です。平安京の北西・乾の地にあたる北野は、神を祀る地であり、清浄な地・聖地です。そこに鎮座した北野天満宮は、やがて皇城鎮護の神社として特別な信仰をもってきました。学問の神の信仰はその一部であり全部ではありません。特に至誠の神として信仰、さらに災難消除、厄除の神としての信仰が、重要な側面で、朝廷の人々をはじめ、歴代の將軍の厄除祈禱が行われてきました。また、現在行われている多くの祭事の中に、厄除の信仰を見ることが出来ます。



天満宮記録に見る 將軍徳川綱吉の厄除祈禱

將軍徳川綱吉の厄除祈禱



徳川綱吉公（伝）・徳川美術館所蔵

江戸幕府第五代將軍徳川綱吉（一六四六～一七〇九）の四十二歳厄年祈禱が貞享三年（一六八六）五月二十一日より十七日間に亘り当宮で行なわれました。一般には生類憐みの令制定で犬公方とも呼ばれ必ずしも評判は良くありませんが、命あるものを慈しむという精神は現代の日本人の根底に流れている精神で、その儒教的思想は現在再評価されています。御祈禱次第、祝詞等の記録が詳細に残されています。御祈禱次第、祝詞等の記録が詳細に残されています。御祈禱次第、祝詞等の記録が詳細に残されています。厄除け祈願が厳肅に且つ丁寧に齋行され、災禍消除、運命長延、さらに国土災厄不浄消除が祈られています。その他にも公家等の厄除がたびたび天満宮神前に行われており、天神信仰のもつ御神徳、厄除信仰の新たる一側面を窺うことが出来ます。



將軍綱吉の厄除祈願、祝詞

乾天神 — 北野天満宮の災禍消除・厄除信仰

厄除を願い、梅花祭に特別なお供え

梅花の御供

平安京の北西・乾、北野の地に鎮座する北野天満宮。天神地祇を祀り、雷公を祀り五穀豊穡を祈った神を祀る地に菅原道真公の御神霊を祀り、やがて「北野天満天神」として信仰されていきました。

学問の神として信仰されていますが、毎年二月二十五日、梅花祭は御祭神菅原道真公の命日にあたり、梅花御供とも呼ばれる伝統ある祭典で、その御神意をお慰めする当宮の最も重要な祭典の一つです。しかしこの梅花祭には、一方では厄除祈願の願いがあることに注目されます。都の乾(いぬい)にある天満宮、易という天・乾の地、北野の地は生命再生の地であり、エネルギーの発生する地です。

男女の厄年にちなみ、梅花祭には特殊神饌として御神前に男の厄年の四十二個の白梅の紙立、女の厄年三十三個の紙立がお供えされ厄除が願われています。

北野天満宮は災禍消除の神、さらに厄除の神としての大きな御神徳があるのです。



梅花祭紙立 白梅42本・紅梅33本



梅花祭の厄除玄米



平安京と北野天満宮位置図

厄、厄年とはどういうこと？

一生を通じ厄災が身に多く降りかかるとされる年齢を厄、あるいは厄年といい、人生の節目として忌み慎む習慣が平安時代からあります。厄年の頃は精神的・肉体的・社会的な転換期とも重なり、病氣・災難、さまざまな障害が起きやすい年です。男女によりその年齢は異なりますが、神社にお参りすることにより神様のご加護を受け、災厄を避け、一年間を何事もなく安泰にさらに今後の人生を無事安寧に過ごすことを祈るのです。

●厄年の年齢(数え年)

男性二十五歳・四十二歳・六十一歳

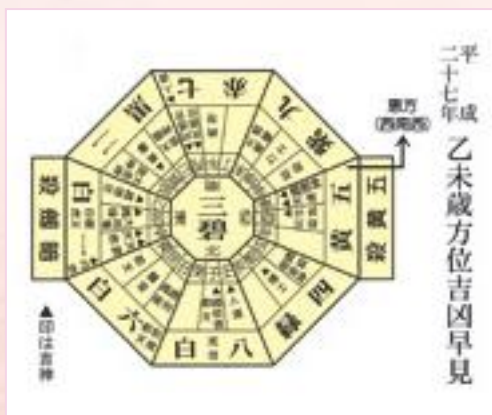
女性十九歳・三十三歳・三十七歳

※地域により六十一歳

(いずれの厄年にもその前後一年間に前厄・後厄の期間があり、本厄と同様に注意すべき年。)

厄除と方位除の違い

年廻りによる厄年は、正月に年神をお迎えし、神様の御魂を頂き、その時に一歳年をとると考え、厄除・厄祓いは新暦の正月から旧暦の正月までに行うのが一般的です。一方方位除は、気学九星上生じる方位の吉凶で、その対策上の祈願方法です。その人の生れ年・月・日により方位の吉凶が異なり、日々の行動に方位の吉凶が生じて行動が制限されます。自分の星・本命星がその年の星の位置と同じ年、つまり同座する年は、「八方塞がり」の年とされています。気学では大厄とも呼ばれ、厄年と同じように災難に遭いやすい年廻りで、そのため災難を除け、運を開く方位除が肝要とされています。いずれにしても「転ばぬ先の杖」として、神様に一年間が無事に過ごせる、厄除あるいは方位除の御祈願を年の初めに受け、心の安寧を保ち日々の生活に邁進したいものです。



◎平成二十七年厄年表(数え年)

男性の厄年 大厄42才					
前厄	本厄	後厄	前厄	本厄	後厄
平成4年生 24才	平成3年生 25才	平成2年生 26才	昭和50年生 41才	昭和49年生 42才	昭和48年生 43才
昭和31年生 60才	昭和30年生 61才	昭和29年生 62才			

女性の厄年 大厄33才					
前厄	本厄	後厄	前厄	本厄	後厄
平成10年生 18才	平成9年生 19才	平成8年生 20才	昭和59年生 32才	昭和58年生 33才	昭和57年生 34才
昭和55年生 36才	昭和54年生 37才	昭和53年生 38才			

錦秋の「史跡御土居のもみじ苑」 十月二十五日より開苑



国宝 御本殿

星欠けの三光門

紅梅殿

繪馬所

菅公ゆかりの「紅梅殿」修繕整い、「別離の庭」がついに完成。

十一月十四日からは恒例のライトアップを実施。期間中は一昨年より進めている「平成の大改修」により移築された菅公ゆかりの邸宅「紅梅殿」と別離の庭を公開する。また、紅葉が境内を美しく彩る中、開苑期間中は様々な奉納行事も予定されている。

さらに本年は、JR東海「そうだ京都、行こう。」キャンペーンのメイン会場に当宮が選ばれており、全国からの多くの参拝者・観光客の来宮が予想され、より一層の賑いが期待される。

◆史跡御土居とは

境内西側に広がる史跡御土居は、天正十九年（一五九二）豊臣秀吉公が洛中洛外の境界として、また水防のために築いた土塁のことである。

現在もかつての自然林が残存し、四季折々の美しさを感じることができる場所である。

なかでも、秋の紅葉は菅公がこよなく愛でられた梅と同様にご縁のある樹木で、御土居一帯におよそ二五〇本。樹齢三五〇年から四〇〇年に及ぶ古木の姿を残し、菅公の御神徳を偲ぶがごとく鮮やかに季節を彩っている。

もみじ苑と国宝御本殿のライトアップを実施！

◆紅葉の見頃に夜間特別公開





牛舎

十二社

老松社

地主神社

八棟造（権現造）

◎もみじ苑公開〓十月二十五日（日）〓十二月六日（日）午前十時〓午後四時
※ライトアップ期間中は午前九時開苑
◎もみじ苑ライトアップ（夜間特別拝観）〓十一月十四日（土）〓十二月六日（日）日没〓午後八時
◎入苑料〓大人七〇〇円・こども三五〇円（茶菓子付）



十月二十五日（日）
〓十二月六日（日）
●千有余年の
天神信仰を物語る
神宝の数々
―宝物殿特別公開―



●平成二十七年登場！
北野天満宮
オリジナル記念品



もみじ連歌 京都連歌の会



日本舞踊 上七軒歌舞会



北野天神 もみじ寄席



和太鼓奉納 北野天神太鼓会



アンサンブル 京都三大学合同交響楽団



オカリナと和歌の弾き語り

●開苑期間中は、多彩な特別行事を奉納



●紅梅殿こけら落とし 十月二十五日（日）
市川海老蔵奉納舞「延年の舞」

国宝「北野天神縁起絵巻」に描かれた
「紅梅殿別離の庭」の再現に先駆けて、紅
梅殿の移築修繕が完了しました。
これを記念して、市川海老蔵さんに舞
を奉納いただきます。
◎詳しくは北野天満宮公式WEBサイト
をご覧ください。



史跡御土居もみじ苑開苑にあわせて 北野天満宮オリジナル記念品を作製

十月二十五日より公開のもみじ苑開苑期間中に、北野天満宮オリジナル記念品を授与致します。
多くの参拝者や観光客が訪れる秋の行楽シーズンにあわせて用意される記念品はおよそ十五点。北野天満宮ならではの梅やもみじ柄のあぶらとり紙やハンカチ、神社らしい巫女さんをデザインしたメモ帳、中高生に人気のシールや付箋など、子供から大人まで幅広い世代の方々に受けて頂けるよう、豊富な種類を調製しました。
北野天満宮参拝記念として、境内特設授与所で頒布致します。



プレミアムクリアファイル (国宝 北野天神縁起絵巻)



天神さんシール三種



クリアファイルA4 (おもひのまま)



梅めも



巫女めも

ガーゼ手ぬぐい 梅もみじ



ガーゼハンカチ 梅もみじ



一筆箋セット



あぶらとり紙 プレミアム



あぶらとり紙 おもひのまま



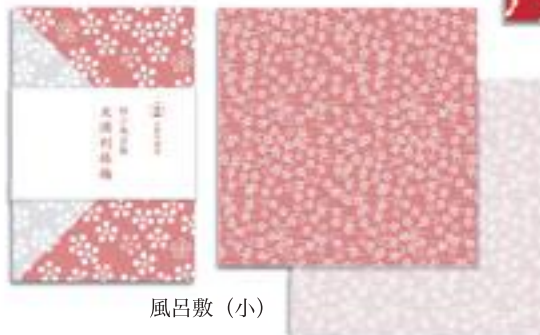
ポストカードセット



風呂敷 (大)



付箋セット



風呂敷 (小)

北野天満宮オリジナル 御朱印帳二種を新調



北野天満宮 御朱印

当宮オリジナルの御朱印帳を新たに調製し、九月より授与を開始した。新調した御朱印帳は二種類。ひとつは全国でも珍しい木製表紙で作られた帳面で、表には菅公を讃える「文道大祖 風月本主」の文字を刻み、格調高い仕上がり。もうひとつは、可愛らしい梅の神紋を散りばめ、鮮やかな青色に金字をあしらったデザインのもの。いずれも初穂料は一冊千五百円で授与している。

史跡御土居のみみじ苑には多く参詣が見込まれ、近年は雑誌などで「御朱印ガール」などの言葉が生まれるほど、御朱印を求める参拝者は増えており、そうした世情も後押しし、すでに人気の授与品となっている。



御朱印帳（木製）



御朱印帳（青色）

北野天満宮公式ウェブサイトより見やすく、利用しやすいサイトに

北野天満宮の公式ウェブサイトを全面リニューアルし、九月より公開した。

神社の情報をより分かりやすく伝えるため、レイアウトやデザインを一新。参拝者がより利用しやすいサイトになるよう構成やデザインに工夫を重ね、各種コンテンツの充実を図った。

近年増加の一途を辿る外国人参拝者のために、日本語のほか英語・中国語・韓国語に対応。若者を中心にその利用が著しいスマートフォン専用のサイトも開設。SNSの活用などを含め、幅広く情報提供を展開する。

今後も天満宮の情報をタイムリーに発信し、参拝者の役に立つサイト運営を心がけていく。

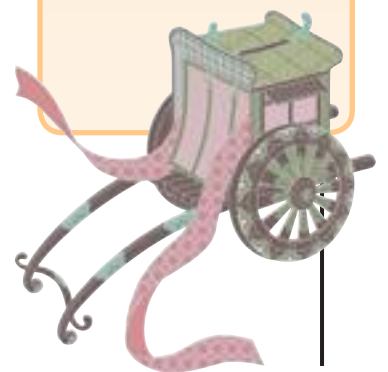


リニューアルサイト TOP ページ



京都新聞に寄稿

去る八月一日（土） 発刊の京都新聞に橘重十九宮司が執筆した原稿が掲載された。
「私のキーワード・きょうと」をテーマに、日本文化に多大な影響を与えた京都・平安京、また北野から全国にその御分霊が祀られる天神さま、さらに天神さまと七夕にまつわる信仰などについて述べている。



京都は日本文化の中心

平安京は日本文化の礎

わが日本人の祖先は、太古の昔、まさしく縄文の昔から自然界全てのものに靈性を認め、靈の大きく働くところに神々を感じ、畏敬と感謝、そして畏怖の念をもって自然と共生してきました。

飛鳥・大和王朝時代に、仏教をはじめさまざまな外来文化が伝来。『日本書紀』の用明天皇の条に「天皇仏法信うけたまい、神道を尊びたもう」と記されているように、神仏習合ともいえる文化が始まったのです。歴代天皇が律令国家建設につとめられる中、都は点々となりました。延暦13（794）年、ついに桓武天皇は山背の国に四海平安の祈りを込めて平安京を建設され、



梅松蒔絵角盥



梅松蒔絵椀



梅松蒔絵硯箱（松風の硯）

伝 菅公御遺愛の松風の硯・角盥・椀

北野の御手洗祭は、伝 菅公御遺愛の角盥・椀をはじめ、硯には墨をおとし、古くは短冊の代用品とされた梶の葉と筆を神前に供え、御祭神に七夕の詩をお詠み戴くとともに、万民の無病息災を祈願する。

千二百年におよぶ文化の都・京都が誕生し、日本文化の礎となったのです。

天神になられた道真公

平安京遷都より50年後に出

現された菅原道真公（菅公）は、政治家でありながら類いまれなる学者・詩人・教育者といわれ、縄文からの美的感受性を大切にしながらも「和魂漢才」の精神で外来文化との和合の道を示されました。後に「文道の大祖風月の本主」と崇められ、村上天皇の天暦元（947）年、平安京

の最も重要な乾（北西）の天門に菅公を祭る北野天満宮が創建されました。そして、一條天皇より北野天満天神の御神号を賜り、全国にその御分霊が祭られ、信仰は一般庶民に広がったのです。

に寄与し、今なおその意味のするところの重要性が指摘されています。ともあれ、日本が世界に類のない高度な文化を育んだ礎に、京都から全国に伝播した北野の天神信仰が大きく関与したと思っています。

届けよう」をテーマとし、門前の商店街などと手を携えてさまざまな催しをします。天満宮の七夕は、室町時代の記録にもある伝統ある神事です。また、菅公が

彦星の

行令いを待つ鵲の

渡せる橋を我に重なむ

天神さまと

七夕（御手洗祭）

旧暦の七夕に合わせた「京の七夕」がきょう8月1日から始

まりますが、これに協賛し今年から「北野七夕祭」を開催します。「みんなの願いを天神さまに

という歌を詠まれていることからも特別な神事とされてきました。今年も7月7日、本殿で神事（御手洗祭）を厳肅に斎行したところであります。「北野七夕祭」に多くの方がお見えになることを願っております。





七夕特別境内ライトアップ

「北野七夕祭」を初開催 京の七夕に協賛

学業大祭・泣き相撲…と多彩な行事
史跡御土居はライトアップで公開



三光門笹飾り

みんなの願いを天神さまに届けよう。京都の新しい風物詩として定着してきた「京の七夕」に協賛し、今年初めて八月一日から十日まで当宮を中心とする「北野七夕祭」を開催した。期間

中、史跡御土居をライトアップして無料公開するとともに六十三年ぶりに天神さまの知恵を授かる「学業大祭」を斎行、さらには乳幼児のすこやかな成長を願う「泣き相撲」を開催するなど多彩な行事を繰り広げ、境内や周辺は、連日にぎわいを見せた。

「京の七夕」は、「願い」をテーマに平成二十二年から京都市などが中心となって旧暦の七夕に合わせて八月上旬から十日間（今年は一日から十日まで）、鴨川・堀川両会場で実施、毎年七十万人もの来場者でにぎわい、京都の新しい風物詩ともなっている。

「北野七夕祭」は、これに協賛する形で、北野紙屋川七夕祭実行委員会（上七軒歌舞会・上七軒匠会・北野門前菅公会・北野天満宮神若会・



神若会北野天神太鼓会による和太鼓演奏



芸舞妓さんも艶やかに踊りを披露



地域住民が参加した盛大な上七軒盆をどり



一の鳥居に掲げられた「京の七夕」大幟

北野天満宮が、北野紙屋川会場として独自に実施した。当宮の七夕神事は、室町時代以前の記録にもみられる伝統神事であり、京都でもっとも七夕にゆかりのある神社として「みんなの願いを天神さまに届けよう」をテーマとしている。

鳥居や本殿前などには、七夕の笹飾りがされ、とくに本殿前の笹飾りには、参拝者が自由に願いごとを書いた短冊を取り付けるようになっており、絵馬と同様に「希望の学校へ入学できますように」「学業成績が上がりますように」などなど願いが満載された笹飾りとなった。

オーピングのセレモニーは、一日午後二時、楼門前に上七軒の芸舞妓を含む実行委員会のメンバー約五十人が勢ぞろい。また、門川大作京都市長もかけつけ、本殿までお練りをした。一同はそのまま本殿に上がり、正式参拝し、再びお練りで上七軒の盆踊り会場へ。門川市長が「北野は歴史・文化の香りが漂う地。この北野七夕祭が、正式に京の七夕に加われるよう検討していきたい」と挨拶した。

その後、恒例の盆踊りが行われ、西陣音頭に合わせて踊りの輪を広げた。また、盆踊りの合間には神若会北野天神太鼓会による太鼓の奉納も行われた。



境内を練り歩く北野七夕祭行列

六十三年ぶりに「学業大祭」再興 二百人以上が参列

「北野七夕祭」初日の八月一日、本殿において午前十一時から「学業大祭」が斎行され、子どもたちのすやかな成長と学問の向上を祈願した。

昭和二十七年春の千五十年大萬燈祭の折に斎行されて以来六十三年ぶりの祭典。子どもやその保護者二百数十人が参列し、本殿内は身動きができないほどの超満員となった。神職が祝詞を奏上し、代表の子どもが玉串を捧げるのに合わせ参列者全員が拍手、頭を下げた祈りを込めた。



史跡御土居に飾られた七夕笹



北野紙屋川会場限定、梶の葉短冊



「京の七夕」の成功を願い、玉串を奉納する門川大作京都市長



全国より多くの参列者が訪れた学業大祭

「はっけよい」と声を掛け、驚いて先に泣き出した方に「勝負あり!」と軍配が上がった。両方が同時に泣き出したり、まったく泣かずに引き分けとなる勝負もあるなど終始爆笑を誘っていた。神楽殿には、大相撲さながらに「満員御礼」の垂れ幕が下がり、かわいらしい赤ちゃんの泣き声に境内はわき返った。

行司による判定によって「泣き相撲」の初代横綱と大関二人が選出され、表彰を受けた。また、参加した赤ちゃん全員に本人の手形や足形入りの賞状が贈られた。

首のすわった生後数カ月から二歳までの赤ちゃんの参加を募ったところ、瞬くうちに予定した百人の赤ちゃんが集まり、この日を迎えた。

午前十時、参加の赤ちゃんは親や近親者に伴われて本殿に正式参拝した後、会場の神楽殿に移動した。赤ちゃんは、かわいらしい化粧まわしに鉢巻き姿で、それぞれのお母さんらに抱かれて登場。顔を突き合わせた二人の赤ちゃんに軍配を持った行司が顔を近づけ、



満員御礼の会場

相撲節会が七夕節会と重なって行われるなど当宮と相撲、七夕は縁が深い。菅公に「ひこ星の行あひをまつかささぎの渡せる橋をわれにかさなむ」と七夕を詠まれた有名な和歌がある上、当宮の七夕祭（御手洗祭）は、古い歴史があることから「天神さまの御加護で知恵を授かり、元気で明るい子どもに」との願いを込め、「北野七夕祭」に合わせて「泣き相撲」の初開催となった。

北野七夕祭のメイン行事「泣き相撲」の奉納が八月八日、神楽殿で行われ、二歳までの男女の赤ちゃん百人が「泣いたら勝ち」の勝負に挑み、境内いっぱい元気よい泣き声を響かせた。

御祭神菅原道真公の祖先である野見宿禰（のみのすくね）公は相撲の祖と仰がれ、平安時代には朝廷で



土俵入り! いざ勝負!

第一回「北野天神泣き相撲」を開催 初の「泣き相撲」に百人の赤ちゃんが挑戦



元気いっぱい泣き声をあげる赤ちゃん



見合って見合って「はっけよい!のこった!」



七夕飾り

御土居内の鶯橋笹飾り



上七軒通りの飾り



取り組み前から泣いています!



泣き相撲



大関 美紗樹ノ海

横綱 隆介山

大関 福太郎丸

初代横綱 野田隆介くんと初代大関 山本美紗樹ちゃん・徳田福太郎くん



土俵となった神楽殿



衣裳は自前!! 泣き相撲参加者



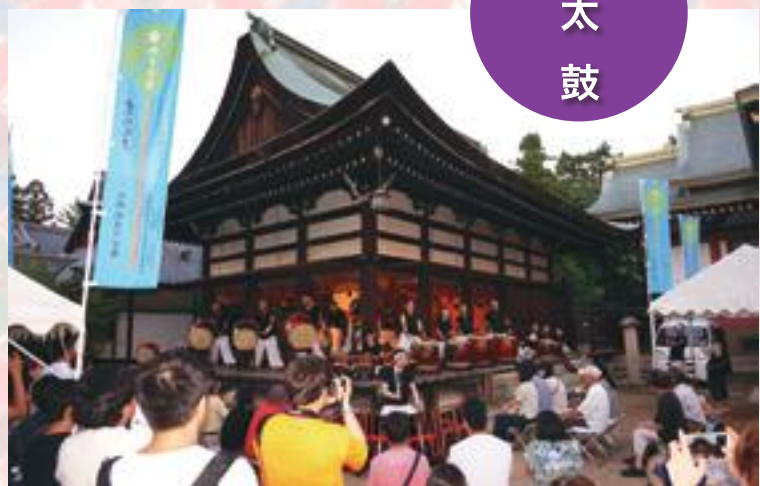
出場記念の手形や足形入りの賞状



横綱・大関の優勝カップ



健やかな育成を祈願



七夕和太鼓コンサート

和太鼓

例祭



斎行された祭典・行事

〈八月〜十月〉

歳かに例祭を斎行
皇室の弥栄・国家安泰を祈願

国家の祭祀であつた勅祭北野祭ゆかりの例祭が、八月四日午前九時から本殿において氏子総代を始め神社役員・崇敬者ら多数の参列の下、歳かに斎行された。

永延元年（九八七）八月五日、一條天皇の勅使参向・奉幣により勅祭の北野祭となつたが、約六十年後、この日が母后の国忌に当たるとして一日早い八月四日が北野祭となり、今日の例祭に引き継がれている。

橘重十九宮司の祝詞奏上に引き続き、当宮の四人の巫女が、菅公が五歳の時に詠まれた御歌「美しや紅の色なる梅の花あこが顔にもつけたくぞある」をもとに元宮内庁楽師の芝祐靖氏が作曲・作舞された巫女舞「紅わらべ」を奉納した。

この後、橘宮司が玉串拝礼し、参列者の代表が次々玉串を捧げ、皇室の弥栄・国家安泰・五穀豊穰・氏子崇敬者の無病息災を祈願した。



新茶奉献奉告祭

今年の新茶を神前にお供えし、茶業の発展を祈願する新茶奉献奉告祭が七月二十五日午前十一時から本殿において斎行された。

新茶を奉献された白川・宇治田原・禅定寺・向島・佐山・京田辺・城陽市平川・同市上津屋・山城町・別所・杣田・原山・南山城村高尾などの生産地を始め京都市茶業組合の代表約四十人が参列した。

祝詞奏上の後、各生産地の代表と煎茶道賣茶本流の渡邊琢祥家元が次々玉串を捧げて茶業の発展と関係者の無病息災・家内安全を祈願した。



新茶奉献奉告祭



正月の縁起物として人気の高い「大福梅（おおふくうめ）」の土用干しが七月二十一日から始まり、境内は約一カ月にわたり甘酸っぱい梅の香が漂った。今年も境内にある約千五百本の梅の木から約二トンの実が採取され、樽で塩漬けにされていた。梅雨明けを待って、この日より干し始め、セミの鳴き声が響く猛暑の中、巫女や神職が汗だくになりながらムシロを敷いた乾燥台の上に広げた。

土用干しを終えた梅の実
はカラカラに乾燥、再び樽
に入れられ、塩漬けにされた。

土用干し



紅わらべ奉納



消防訓練

火災から貴重な文化財を守れ
当宮で恒例の消防訓練

夏の文化財防火運動の一環として、七月十五日午前十一時から当宮で恒例の消防訓練が実施された。当宮自衛消防隊と上京消防署・翔鸞消防分団・文化財市民レスキュー隊などから約五十人が参加した。本殿東北透塀屋根付近から出火の想定で行われ、発煙筒がたかれる中、本殿内から宝物類が搬出され、放水銃や消防車からの放水も行われるなど迫真の訓練となった。

なお、この消防訓練をうけて九月十日には平成二十七年上京区自衛消防隊訓練大会（上京区自衛消防連絡協議会主催）に出場し、当宮は屋外消火栓の部で今年も見事「優秀賞」に輝き、表彰を受けた。

夏休み恒例の奉納図画展
子どもの感性あふれる作品がずらり
二百十七点が入選し、喜びの授賞式

夏休みの恒例の奉納図画展が今年も八月十九日から三十日まで本殿前西廻廊で行われ、幼児から中学生まで六百九十一一点の作品が展示された。

同展は、子どもたちが夏休み中に描いた図画を奉納し、図画の上達とすこやかな成長を祈念する六十年の歴史を誇る催し。天満宮の境内や動植物などを描いたものなど子どもの感性が光る作品が一堂に並び、連日多くの参拝者が鑑賞した。



奉納図画展

の上達と学力向上を祈願した。橋宮司が「入賞おめでとうございます。これを自信として勉強やスポーツなども頑張つて立派な成人になってください」と、励ましの言葉を述べた後、一人ずつ賞状と記念品を手渡した。

審査は初日の

十九日午前中、三輪晃久（日本画家）、伊庭新太郎（洋画家）の両先生により行われ、二百十七点の入選作品が決まった。

入選者授賞式は、最終日の三十日午後三時から入選者と保護者が参列して本殿で行なわれた。お祓いを受けた後、入選者の代表が玉串を捧げ、参列者全員が図画

入賞者は次のみなさん。

【天満宮賞】島津蒼（年少） 池田唯空（今宮幼稚園年少）、永田一斗（京都きらら幼稚園年中）、伊豆藏朋樹（北野幼稚園年中）、森さくら（せいしん幼稚園年長）、佐野慶斗（せいしん幼稚園年長）、池田虹都（大宮小一年）、加藤雅史（西陣中央小二年）、浅田理乃（梅津小三年）、北村里帆（ジャ

ルダン美術研究所、小学四年）、有友花英（アトリエ・キダ、小学五年）、藤井望愛（梅津北小六年）、加藤桃子（烏丸中二年）、北村友海（ジャルダン美術研究所、中学三年）

【京都新聞特別賞】光安理子（アトリエ・キダ、小学五年）

【京都新聞社賞】竹村帆葉（京都きらら幼稚園年少）、井上心道（ジャルダン美術研究所、年少）、宮澤直紀（京都きらら学園年中）、川口和虎（京都きらら幼稚園年中）、加藤雛梨（北野幼稚園年長）、三内匠（北野幼稚園年長）、藤田琴乃（衣笠小一年）、松井隆之介（アトリエ・キダ、小学二年）、井上太智（ジャルダン美術研究所、小学四年）

【上京子供会会長賞】

前田錦稀也（北野幼稚園年長）、松村明日香（鳳徳小三年）

【金賞】頼金夏萌（太秦幼稚園年少） 始め六十七人

【銀賞】橋場開世（京都きらら幼稚園年少） 始め百二十四人



◎審査員の先生の講評

毎年、審査して感じることで、子どもの発想には大人では考えつかない異次元的なものがあり、それが楽しい。それぞれの個性がおりるので審査の方も丁寧になる。あまり指導者の意識が強くなるが、その中でも、枠からはみ出した作品があり、選ぶ方としては惹かれてしまう。今年も才能を感じる作品が幾つかあったので、それを伸ばしてほしい。

親子ふれあい写生大会

第三十七回親子ふれあい写生大会（上京子ども会育成連絡協議会主催）の入賞者表彰式が七月二十六日午前十時から社務所大広間で行われた。

この写生大会は、五月二十四日府立植物園において児童・保護者ら約六百人の参加のもと行われ、優秀作品二百点（京都府知事賞・京都市長賞・北野天満宮賞など特別賞は二十三点）を選び、この日まで九日間わたり本殿前西廻廊に展示された。

表彰式で橋重十九宮司が「受賞を心の支えに学問・技芸・スポーツに励んでください」と、励ましの言葉をおくった。

親子ふれあい写生大会



御鎮座の往時をしのぶ「ずいき祭」賑わう
還幸祭に「花傘」「担い茶屋」が初巡行

京都の代表的な秋祭りの一つとして人気の高い「ずいき（瑞饋）祭」が、十月一日から五日まで華やかに斎行された。今年は『北野祭礼図絵巻』にも描かれている「花傘」が復活し、還幸祭の巡行に加わったため、沿道はひととき賑わいを見せた。御鳳輦が渡られた御旅所界隈一帯は多くの露店が並び連日参拝者の熱気で沸き立った。

ずいき祭の名称は、御祭神が渡られる御旅所にずいき芋などの野菜で飾った「ずいき御輿」が奉安されることに由来し、御鎮座の往時をしのぶとともに秋の実りに感謝する祭りとして親しまれている。

神幸祭の一日午前九時から本殿で菅公の御霊を御鳳輦に遷す出御祭が厳粛に斎行された。しかし、その後雨となり、一の鳥居前で神若会北野天神花傘会によって修復された「担い茶屋」のお披露目がランディーチャネル宗榮裏千家教授により行われた後、三基の御鳳輦をはじめ、威儀物、供奉者らの祭礼行列が巡行した。

御旅所到着後は着御祭を斎行、八乙女が鈴舞と田舞を奉納した。二日は表千家左海大宗匠奉仕による献茶祭、三日は西ノ京七保会による特殊神饌「甲御供」の奉饌、「担い茶屋」のお披露目茶会、夜には神若会北野天神太鼓会の和太鼓の奉納も行われ、大賑わいとなった。

絶好の好天となった還幸祭の四日は、午前十時、御旅所を出御祭を斎行した後、牛の曳く御羽車、松鉾や梅鉾、八乙女や稚児、宮司の乗った馬車など……に「花傘」や「担い茶屋」も加わり、豪華で長い祭列が氏子区域を巡行した。一方、祭礼の間、御旅所に安置されていた「ずいき御輿」は、西之京瑞饋神輿保存会の人たちの奉仕で巡行し、精緻な野菜の芸術品ともいえる御輿が沿道の人たちの目を楽しませた。



ずいき祭



献茶祭（表千家 左海大宗匠奉仕）



八乙女舞奉納



甲御供奉饌



ずいき御輿の巡行

平成二十七年度 ずいき祭稚児奉仕者名簿

役名		名前	
八乙女	青山	璃南	半尻
	青山	愛実	渡邊 陽太
北村	涼夏	田村 展克	汗衫
	柊奈	水谷 百花	服部 美悠
田村	みその	畠山 凌一	岡部 吉希
	夢乃	辻田 巨汰	辻田 望
馬場	碧惟	井鼻 瑛太	芝原 爽悟
	悠月	松本 遼太	岩本 和真
竹内	滉喜		
	和幸		
海老名	奏太		
水干			

御旅所献詠「芋葉」

なつかしき家並の村にこの年も

芋葉にあらし吹き過ぎにけり

大阪府 村島 麗門

名月の芋葉の露に揺れるるを

歌人はいかに詠むものぞかし

岐阜県 波多野千寿子

芋葉伸ぶ青き空にはデモの声

響き戦後の終はるはいつぞ

京都市 若狭 静一

いもの葉にころがる水の玉一つ

秋の御空を内にとじこめ

京都市 塩小路光胤

芋の葉のつゆを硯にうつさんと

風のいたずらはらりこぼるる

愛知県 仁枝 尚子

雨上がり芋葉に残る水玉の

まあるく澄みて朝のころに

福井県 武曾 豊美

いにしへの手鑑すずし芋の葉の

露をもとめて朝の野に出づ

京都市 朝比奈常子

芋の葉に転がる水玉越しに見る

逆さの世界虹の七色

東京都 白石 雅彦

【評】

日本人にとって大切な芋。その葉の形状を見たこともない人も増えているように思う。祭は、あらためて身近で大切なものに目をむける時間でもある。

「北野祭」の装いを今に
「花傘」と「担い茶屋」が復活
神若会北野天神太鼓会・北野天神花傘会の全面協力で



花傘の巡行（上七軒通り）

かつて当宮の最も重要な祭礼だった「北野祭」に供奉していた「花傘」が復活、併せて数年前、蔵から見つかった「担い茶屋」の修復もなり、十月一日から始まったずいき（瑞饋）祭でお披露目された。「花傘」を復活させ、「担い茶屋」を修復したのは、天神さまを心から崇敬する氏子の若者が中心となり、北野天満宮と氏子地域の発展を目指して平成十九年に結成した神社崇敬団体の北野天満宮神若会（柴田晃一郎会長）。会員数は約一二〇名を数え、当宮の祭事にご奉仕するとともに、氏子区域や地域の発展・活性化のために活動し、北野天神太鼓会（竹内勤会長）と北野天神花傘会（井上経和会長）の二団体で構成される神社青年会である。「北野祭」は、かつて勅祭として斎行され、戦乱や幾多の変遷を経て、現在は例祭（八月四日）と瑞饋祭（十月一日から五日）の二つの祭礼に分かれた形で引き継がれている。当宮には、かつての北野祭の様子を伝える『北野祭礼図絵巻』が現存しており、そこには鮮やかな生花を頂く「花傘」が描かれている。花傘会の会員は、この祭礼絵図に描かれている「花傘」を復活させようと、約一年の歳月をかけ、絵巻に描かれている図だけを頼りに制作に取り組んだ。制作過程で様々な課題に直面するも、神社に残された古材や生地な



担い茶屋お披露目茶会（ランディーチャネル宗榮 裏千家教授奉仕）



担い茶屋の巡行





三基の御鳳輦と花傘が祀られた御旅所神輿殿にて八乙女舞を奉納



花傘と担い茶屋の記者発表



記者発表に出席した花傘会のメンバー

ずいき祭を前にした九月二十九日午後三時から社務所大広間で「花傘」と「担い茶屋」復活の記者会見が行われ、一足先に報道陣に公開された。

まず挨拶に立った橘宮司が、北野祭とずいき祭の由来について説明を行い、『北野祭礼図絵巻』に描かれている「花傘」が、北野天神花傘会を中心とする崇敬者らの熱意で復興されたことに對し、喜びと感謝の言葉を述べた。

ついで、花傘会の井上経和会長が「初めは私一人だけではじめた取り組みも、多くのご縁によって会員に加わって頂きました。その中には各部門の専門の方もおられ、復興するなら、後世に残るようないいものを、ということと意気込みを見せられ、私が当初考えていたものより数段立派なものができました」と、手を携えて制作してきた会員の労を讃えた。

会場の一角には復興の足掛かりとなった『北野祭礼図絵巻』が展示され、集まった多くの報道陣が熱心に見入っていた。

この後、記者会見は本殿前の中庭に移り、復興された「花傘」と修理成った「担い茶屋」が公開された。青空の下で「花傘」の巨大さ、色合いの見事さが映え、報道陣の間から感嘆の声が上がっていた。

花傘会員の中には、料理店の経営者もあり、当日行列に参加する会員に振る舞う竹の皮に包んだ「宮弁当」の見本まで披露し、ずいき祭初参加への意気込みをみせた。

「花傘」と「担い茶屋」復活の記者会見

一足先に報道陣に公開

どを再利用する一方で現代の技術を駆使し、当時の「花傘」を忠実に再現することに心掛けて作業は進められた。

こうして完成した「花傘」は、骨組みはスチール製。下に車輪がつけれられ、高さ三・二メートルで、頂点に飾り付ける花の高さを入れると約四メートルとなる。傘の直径は約二・八メートル、恐らく花傘では最大のものといわれる。傘布は西陣織で、薄茶と赤からなり梅鉢の神紋が入っている。

一方、「担い茶屋」は、中世から近世にかけて茶釜や茶器などの茶道具を天秤棒で前後に担い分けて呈茶する道具。数年前、当宮の蔵から発見された。汚れや破損があったが、これも会員が必要に応じて部分的に解体した上、洗浄し、修理を加えて再度組み立て修復した。



還幸祭 三条駐輦所

瑞饋祭では天神太鼓も披露



御旅所神輿殿



料亭「松条」さんの指導により作られた「宮弁当」



勢揃いした神若会会員（御本殿）



花傘の制作風景

北野天神神若会を組織する北野天神太鼓会と北野天神花傘会の会員約一二〇人のうちおよそ八〇人が九月六日社務所大広間に集い、臨時総会を開いた。

総会に先立ち、参加者は本殿に正式参拝し、柴田晃一郎会長が玉串を捧げ、会の隆盛と会員・家族の無病息災を祈願した。

総会は、太鼓会の野々口匠師範を含む三人による勇壮な太鼓の演奏で幕あけ。花傘会の井上経和会長が「いろんな方の協力によって花傘を復活させることができ、大変うれしい。今後は太鼓会のみなさんと心を一つにして頑張りたい」と挨拶。花傘復活の苦労話と復活に当たった各パーツの会員を紹介して労をねぎらった。この後懇親会に移り、両会が親睦を深めた。



新調した神若会団旗の棒

神若会の臨時総会を九月六日に開催



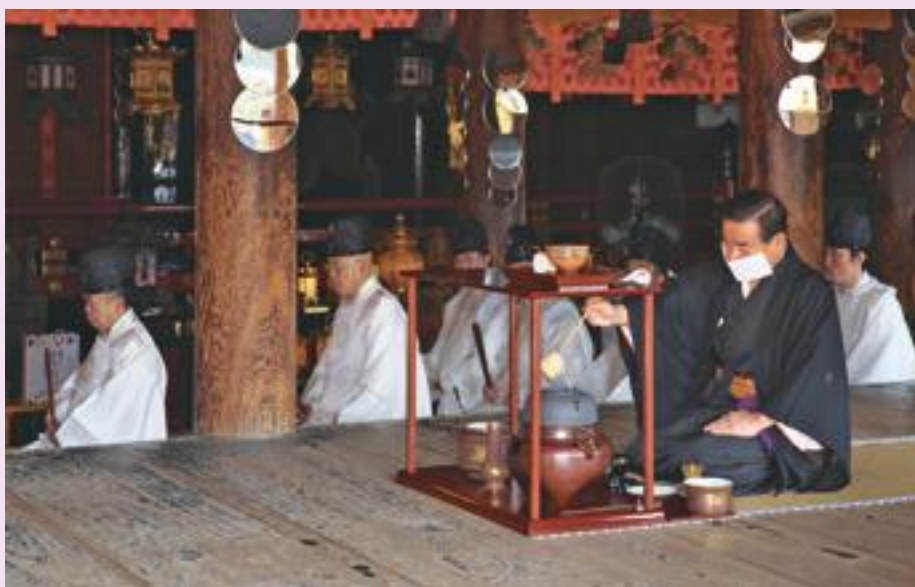
一の鳥居にて担い茶屋のお披露目



盛大に臨時総会を開催

十二月一日 献茶祭

明治十一年に再興された献茶祭。使用される茶は毎年、山城六郷の産地から奉献され、在洛の四家元・二宗匠の輪番により斎行。御茶壺奉献祭・口切式から献茶祭へと続く一連の行事・祭儀を行っている。



神前にて献茶される武者小路千家官休庵千宗守家元（平成21年）

約四百年前の「北野大茶湯」になむ献茶祭が十二月一日、本殿で斎行される。在洛の四家元・二宗匠の輪番によるご奉仕が慣例とされ、今年のご奉仕は武者小路千家官休庵千宗守家元。
社務所や明月舎を始め上七軒歌舞練場などにも茶席が設けられ、絵馬所には「菓匠会」による飾り菓子の展示が行われる。



菓匠会協賛席（絵馬所）



副席（上七軒歌舞練場）

十二月二十六日 御茶壺奉献祭・口切式

十二月二十六日



口切式

献茶祭で使用される抹茶の原料である碾茶（てんちゃ）が十一月二十六日、山城六郷の茶師によって御茶壺道中で奉献され、本殿において奉献祭を斎行した後、献茶祭保存会役員が茶壺の口を切る口切式が執り行われる。



御茶壺道中



『重陽後一日』の名詩を作られた菅公をしのび、十月二十九日、本殿で余香祭が斎行され、引き続き献詠歌披講式が執り行われ、車座の向陽会会員らが独特の節回しで献詠歌を披講する。



十月二十九日

余香祭・献詠歌披講式



十月三十一日

一條天皇行幸始祭

寛弘元年（一〇〇四）に一條天皇が初めて当宮へ行幸された日に当たる十月三十一日、本殿で斎行する。



十二月十三日

大福梅の授与

正月の縁起物として名高い「大福梅」の調製作業が十一月下旬から始まり、事始めの十二月十三日から授与される。



十一月二十三日

新嘗祭

その年に収穫された新穀を神前に供えて豊作に感謝する新嘗祭が十一月二十三日、大祭式で斎行される。





祭事暦 (10月1日～12月31日)



[10月]

10月1日～5日 ずいき祭

〈ずいき祭祭礼日程〉

- | | | |
|-----|-------|------------------|
| 1日 | 神幸祭 | |
| | 午前9時 | 出御祭 本社 |
| | 午後1時 | 行列出発 |
| | 午後4時 | 着御祭 御旅所 |
| | | 八乙女「田舞」「鈴舞」奉納 |
| 2日 | 午前10時 | 献茶祭 御旅所 表千家宗匠奉仕 |
| 3日 | 午後3時 | 甲御供奉饌 御旅所 |
| | | 西ノ京七保会による特殊神饌の奉饌 |
| 4日 | 還幸祭 | |
| | 午前10時 | 出御祭 御旅所 |
| | 午後1時 | 行列出発 |
| | 午後5時 | 着御祭 本社 |
| 5日 | 午後3時半 | 后宴祭 本社 八乙女「田舞」奉納 |
| 15日 | 午前10時 | 月次祭 |
| 17日 | 午前10時 | 神宮祭 |
| | 午後4時 | ずいき祭終了奉告祭 |
| 21日 | 午前10時 | 一條天皇行幸始祭 (中祭式) |
| | | 秋季摂末社奉饌 |
| 25日 | 午前9時 | 月次祭 |
| | 午後4時 | 夕神饌・名月祭 (豆名月) |
| 29日 | 午後2時 | 余香祭 |

[11月]

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 11月1日 | 午前10時 | 月首祭 |
| 3日 | 午前10時 | 明治祭 |
| 15日 | 午前10時 | 月次祭 |
| 23日 | 午前10時 | 新嘗祭 (大祭式) |
| 25日 | 午前9時 | 月次祭 |
| | 午後4時 | 夕神饌 |
| 26日 | 午前11時 | 御茶壺奉献奉告祭 |
| 27日 | 午前10時 | 摂社和泉殿社例祭 |
| 30日 | 午前10時 | 赤柏祭 |

[12月]

- | | | |
|-------|------------|----------|
| 12月1日 | 午前9時 | 月首祭 |
| | 午前10時半 | 献茶祭 |
| 13日 | 午前8時半 | 大福梅授与 |
| 15日 | 午前10時 | 月次祭 |
| 17日 | 午前9時 | 御煤払い |
| 23日 | 午前10時 | 天長祭 |
| 25日 | 午前9時 | 月次祭 |
| | 午後4時 | 夕神饌 |
| 28日 | 午前9時 | 注連縄飾り |
| 31日 | 午後4時 | 大祓式 |
| | 午後7時 | 除夜祭 |
| | 午後7時半 | 火之御子社鑽火祭 |
| | 午後10時～午前3時 | 火縄授与 |



月釜献茶 (11月1日～12月31日)



[11月]

- | | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 11月1日 | 献茶祭保存会 | 馬場 宗鶴 | (明月舎) |
| 8日 | 梅交会 | 晴 風 会 | (松向軒) |
| 15日 | 献茶祭保存会 | 長島 宗里 | (明月舎) |
| | 松向軒保存会 | 村上 宗恵 | (松向軒) |
| 22日 | 紫芳会 | 井田 宗美 | (松向軒) |

[12月]

- | | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 12月1日 | 献茶祭 | | |
| 13日 | 梅交会 | 郡 宗由 | (松向軒) |
| 15日 | 献茶祭保存会 | 休 会 | (明月舎) |
| | 松向軒保存会 | 土本 宗丘 | (松向軒) |
| 27日 | 紫芳会 | 休 会 | (松向軒) |



十二月二十五日は、今年の縁日を締めくくる終い天神で、多くの露店が並び、正月商品を購入する参拝者でにぎわう。夜は境内ライトアップも行う。

終い天神

十二月二十五日



十二月三十一日に斎行され、一年間の罪や穢れを託した人形を祓い清め、清々しい身心で新年を迎える。

大祓式

十二月三十一日

「国宝 北野天神縁起絵巻」を読む

同志社大学文学部教授

竹居明男



「法皇佇立（棕木法皇）」の段

突如、道真公に左遷の宣旨が下る。宇多法皇は急いで宮中に駆けつけるが、道真公に私怨を抱いていた藤原菅根に阻止されて、空しく還る。

「法皇佇立（棕木法皇）」の段――

第三巻第二段の詞書は、長大なる第一段の詞書末尾の、中途になっている文章に続けて、

仁は秋津（秋津洲＝日本国の別称）の外に流れ、
恵みは筑波山の蔭よりも茂し。紫霄（＝大空。
転じて「王宮」の意）の上に皇位静かに、蒼海（＝
大海）の中に和やかなり。

で始まり、「延喜の聖の御門」こと醍醐天皇の英明を讃えている。醍醐・村上両天皇の治世は、後に「延喜・天曆の治」と称して理想化されたことは有名である。ところが、詞書は一転して

思はざりき、昌泰四年（九〇二）正月廿九日に、
左大臣の讒奏（ざんそう）によりつゝ、大宰権帥に遷して、
流罪の宣旨（せんじ）下すべしとは。

と続ける。左遷の宣旨が下つたのは、『政事要略』・『日本紀略』ほか確かな史料によれば、昌泰四年（後に延喜に改元される）の正月二十五日とするのが正しいようだが、史実としてはさらに、これに先立つ正月七日に、道真公は時平とともに従二位に昇叙され

た（『公卿補任』）ばかりであるから、いずれにしても運命の急転であった。

公は、「悲しみの余りに耐え（へ）ずして、

流れ行く我は水屑（みくず）となりぬとも

君柵（きんさく）となりて留めよ

という和歌を詠じて「亭子の法皇」こと宇多法皇に奉った。この和歌をご覧になった法皇は、「涙にむせびつゝ」、自分の子である天皇に翻意を促そうと直ちに宮中に駆けつけたのである。その様子を、詞書は次のように記している。

十善（＝天皇の地位の敬称）の御足に汚き泥をのみ付けて、上西門を入りて、豊樂院・真言院を打ち過ぎ、清涼（涼）殿に近付きまし／＼けれども、

ところが、詞書は続いて

其の時、菅根卿、蔵人頭にて、昔、殿上の庚申の夜の御遊に、面を打たれ奉りたりける恨みの深さに、奏達せざりければ、味気なく、大庭（おおば）の棕（むく）の木を恨めしと御覧じて、赤日山の端に傾き、涙にも暮れつゝ、還御なりしぞ浅ましく覚えし。と記しているように、蔵人頭藤原菅根の私怨（縁起に先行する説話集『江談抄』に「菅家、菅根の頬を打たる事」という話が載る）によって阻止され、夕日傾く頃に法皇は空しく還御されたのである。

以上に対応する画面は三紙にわたる。香染の僧衣姿の法皇と束帯姿の藤原菅根とが対峙している場面である。菅根の背後には隨身や侍臣たち七人が控え、また法皇の背後や脇にも三人の僧が近侍しているが、居並ぶ二人の僧の視線が法皇とは反対になっているのは何故だろうか。菅根は平伏しているが、結局、法皇の命を天皇に取り次がなかったのである。

なお画面上部の建物の脇には、詞書にも見える「棕の木」らしい樹木が見えるが、この木のことは、承久本以前の縁起文や諸史料には見えていない。

道真公、住み慣れた自邸紅梅殿の庭に咲く梅と桜とに別れを告げる

―「紅梅殿別離」の段―

続く第三段は、本絵巻の中でも最も有名な場面の一つで、少し長くなるが、まずは対応する詞書の全文を引用しておきたい。

其の後、勅宣重くして、男女御子息廿三人の中、男子四人は同じく四方に流されき。大人しくおはしましける姫君は、京の内に留め置き、稚く幼き君達、打ち具して出で給ひしに、住み慣れ給ひける紅梅殿の懐かしきの余りに、心なき草木にも契りを結び給ひける。

東風吹かば匂ひ起こせよ梅の花

主なしとて春を忘るな

桜花主を忘れぬものならば

吹き来む風に言伝てはせよ

さて、この御哥（＝歌）の故に、筑紫へこの梅は飛びて参りたりとぞ申し侍るめる。この間の

哀れき、書き尽くすべからず。中にも北の方の御嘆き、譬へん方ぞなかりける。

まことに、いかんともしがたく大宰府左遷が決定した道真公や子息四人（高視・景行・兼茂・淳茂の四兄弟）の四散に、北の方（島田宣来子）をはじめとする一家の悲嘆の様相を伝える名文である。

計四紙にわたる場面は、住み慣れた紅梅殿（平安京の町尻小路西・五条坊門小路北、五条三坊二町に所在した。現下京区仏光寺通新町西入ル菅大臣町）に別れを告げる道真公の姿を中心に描く。

画面右上の建物の室内に公が座し、簀子や建物の下に数名の近侍の人々（門下生たち）を配する。その建物から鉤の手状に奥に入った縁の上にも四人の人物（一人は僧形）が何やら言葉を交わしている。画面左手の対屋には、深々と簾を降ろした室内に、悲嘆にくれる北の方や女房たちの姿を描く。傍らに火桶・硯箱・冊子を置いた几帳の奥に、わずかに北の方らしい女性の装束がのぞいている。

建物に囲まれた中央の庭には、屈曲する遣水の傍らに、すでに散り始めた紅梅と咲き始めた（？）桜の木がある。これらの樹木に向かって、公が詠じた和歌の一首が、後に人口に膾炙した「東風吹かば」であるが、縁起文では、同時に桜の木に対しても別れの歌を詠じていたことが注意される。桜の木に対するかのように描かれている一人の立ち尽くす人物も、単なる添景ではないかもしれない。

また詞書には、公の思いに応えて、梅の木が筑紫の配所に飛んで行ったという「飛梅伝説」もうかがえるが、同じ縁起文でも、先行する建久本・建保本には見えていないことも注意しておきたい。以上をもつて、本縁起の第三巻が終わる。



「紅梅殿別離」の段

梅風会だより

全国天満宮梅風会京都府支部総会



平成二十七年
度の全国天満宮
梅風会京都府支
部（出雲路敬直
支部長）の総会
ならびに一日
研修が九月九日、
兵庫県高砂市で
開かれた。

前日より近畿
地方に台風が近
づき開催自体が
危ぶまれたが、心配するほどの悪天候では
なく予定通りに行程は進められた。

三十八名（当宮からは四名）が参加し、
高砂市の曾根天満宮に正式参拝、参拝後に
総会を開き、平

成二十六年度の
活動報告などを
承認した。その
後はキリンビー
ル神戸工場を見
学、温泉神社や
有馬天神社を自
由参拝するとと
もに、最後は有
馬温泉街を散策
し、無事に研修
を終えた。



氏子講社だより

●理事会開催

氏子講社（中井宗一講社長）
の理事会が九月四日午後四時
から講社員多数出席のもと社
務所で行われた。平成二十六
年度決算報告を了承し、瑞饋
祭巡行の担当学区や講、巡行
路の確認をした。また今年か
ら巡行列に新たに加わる「花
傘」や「担い茶屋」の説明も
行われ、各担当理事からは、
更なる巡行列の盛り上げりに
期待が寄せられた。

ボーイスカウト第八十五団だより

●恒例のボーイ隊・カブ隊が夏キャンプ実施

ボーイスカウト京都第八十五団（本部当宮）のボーイ隊
の夏キャンプが八月二十日から二十二日まで滋賀県高島市
の六ツ矢崎浜オートキャンプ場で行われた。見渡す限りに
広がる琵琶湖を背にテントの設営をし、野外炊飯や工作、
海水浴やキャンプファイアーを実施、日頃の訓練の成果を
発揮した。

また八月八日・九日と一泊二日の日程でカブ隊の夏キャ
ンプが京丹波町の質志鍾乳洞公園で行われた。

●第二十三回世界ジャンボリーに伴い
イタリアのボーイスカウトと交流

——日本の文化和太鼓にも挑戦——



第二十三回世界スカウトジャン
ボリー（山口県阿知須・きらら浜）
の開催（七月二十八日～八月八日）
に伴い、イタリアから参加するスカ
ウトたちが七月二十五日の縁日に
来宮。当八十五団ボーイ隊と交流の
場が設けられた。スカウトたちは言
葉の壁もなんのその、身振り手振り
を駆使しながら積極的にコミュニ
ケーションを図り、交流に努めた。
また縁日恒例の神若会の天神太鼓
も体験。日本の文化を肌で感じたイタリアのスカウトたち
は、興奮した様子で熱心に太鼓を打ち鳴らしていた。

神若会だより

●京都府主催 府立植物園「名月観賞の夕べ」に出演
北野天神太鼓会「和太鼓」披露

京都府主催で毎年開催されている「名月観賞の夕べ」が
九月二十七日、京都府立植物園で開催され、大芝生仮設ス
テージにて天神太鼓会が和太鼓を演奏した。

多くの地元の方々や観覧者など約一万人が訪れる中、美
しくライトアップされた植物園を背景に、四曲を演奏した。



近畿地区女子神職会 正式参拝並びに研修会を開催



女子神職としての教養を習得するとともに、相互の親睦を図ることを目的に実施される近畿地区女子神職研修会が京都府の当番で開催され、九月四日当宮を参拝した。

全国女子神職協議会の中島

建乃副会長、京都府女子神職会の六人部美恵子会長を始め、およそ七十名の参加者が御本殿に正式参拝し、神前に玉串を捧げた後、場所を社務所大広間に移して記念講演を開催。上七軒「大文字」女将の今井貴美子氏が講師となり、京都の伝統文化である「花街の歴史や文化について」「花街に生きる女性について」などをテーマに約一時間半にわたって講演した。普段は聞くことの出来ない貴重な話の数々に参加者は熱心に耳を傾け、充実した研修を修めた。



「平成の大改修」着々と 紅梅殿裏に収蔵庫を新築

千百二十五年半萬燈祭に向けた「平成の大改修」の一環として、一昨年より進めている境内西広場の整備事業である紅梅殿の移築と庭苑再現に伴い、紅梅殿裏手に収蔵庫を新築し、八月下旬に完成した。

境内の景観にも考慮した木造の倉造りで、今後は神社の収蔵物等の保管に活用していく予定である。



正式参拝された皆様(敬称略)(七月～九月)

七月 十二日(日)	「親子で行く修学旅行」 京都
七月 十八日(日)	天満神社氏子総代会
八月 十六日(日)	よう北野まつり
	京都新聞旅行部
八月二十三日(日)	「親子で行く修学旅行」 京都
八月二十九日(日)	土生神社総代会並びに
	郷土の歴史を学び伝承する会
九月 四日(日)	近畿地区女子神職会
	海津天神社 宮司 藤田長史
九月 六日(日)	「親子で行く修学旅行」 京都
九月 十三日(日)	「親子で行く修学旅行」 京都
九月 十六日(日)	公益財団法人
	全国社寺等屋根工事技術保存会
九月二十八日(日)	京都市文化観光保護財団

挙式された皆様(七月～九月)

七月 四日(土)	山上誠人・絵理	ご夫妻
七月二十六日(日)	福家一浩・良美	ご夫妻
八月 二日(日)	増岡佑樹・怜子	ご夫妻
九月 五日(土)	桃田稔也・沙里	ご夫妻
九月 十三日(日)	江藤智将・晴子	ご夫妻
九月 二十日(日)	高瀬恭弘・てるみ	ご夫妻
九月二十二日(火)	駒井重忠・喬子	ご夫妻

御新郎御新婦お二方の末永いご多幸と御両家の益々のご発展をご祈念申し上げます。

天神さん 思い出写真館



昭和三年の春に斎行された千二十五年半萬燈祭における五千燈明舎受付界限のにぎわいである。服装をご覧になれば、当時のファッションがわかり、一世紀近い時の流れを感じさせる。男性が一樣に帽子をかぶっており、これも当時のやりだったのだろう。

さて、千二十五年半萬燈祭は、元来は一年前の春斎行の予定で準備は着々進んでいたが、大正天皇の崩御によって一年延期となり、昭和三年の四月二十二日から五月十二日まで二十一日間にわたって斎行されている。

燈明舎は、境内の空き地に大小合わせて十三棟が建てられ、三光門前西広場に建てられたこの五千燈明舎がもっとも大きかった。



萬燈の点火は二十一日間、毎日午後九時まで行われたが、祭典初日の四月二十二日午前六時から本殿で古式による鑽火(さんか)式が行われ、「その火をもって萬燈舎の第一火を点じた」と記録されている。

献詠

濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。
室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

七月「夕風」

フエリーにてひと日を海に對峙して

津軽海峡夕風を航く

福井県 武曾 豊美

ねじ花の手描きのカバン肩に掛け

夕風見つむ還歴の我

大阪府 村島 麗門

夕風に金色の波輝きて

瀬戸の海面に陽を送るまで

愛知県 鈴木 幸子

夕風はここにも似てうつろひの

ひととき胸にせまりきたれり

京都市 今井 輝子

夕風きて此の穏やかな海なれど

東北津波牙をむきたり

岐阜県 波多野千寿子

裏切りの海も夕風ぐ牡蠣筏

ずしりと重き命連ねて

京都市 若狭 静一

夕風の水面にうつる島かげを

わけて渡りし花嫁の舟

京都市 塩小路光胤

夕風に浅照水面さざ波の

えがくは僧都水茎があと

愛知県 仁枝 尚子

夕さりと風は風げどもわが恋は

白搗く入日沖を染めつつ

京都市 朝比奈栄子

夜は陸^く登わだつみを通ふ風

逢瀬の時か夕風の浜

東京都 白石 雅彦

大なる獲物担ぎて浜辺ゆく

赤き落日海は夕風

長岡京市 智野利恵子

【評】夕方、海風から陸風に交代する無風の時間。定家の歌「来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに焼くや藻塩の身もこがれつつ」自然現象に心を託す。

八月「瓜」

瓜食みて子供思へりその昔

今や原発事故なきを願ふ

福井県 武曾 豊美

マンションのフェンスに蔓を伸ばしたる

ゴーヤに混じり西瓜が三個

大阪府 村島 麗門

亡き父の好みし真桑瓜もとめ

初売りの日の行列ならば

愛知県 鈴木 幸子

瓜もまた変はれる世にて風物と

みなす姿のいと涼しけれ

京都市 今井 輝子

胡瓜茄子苗植え終へて帰り来る

夜にしとしと慈雨に恵まる

岐阜県 波多野千寿子

盆供養お下がりの瓜切りたれば

祖母の好みし香のなつかしき

京都市 若狭 静一

瓜茄子ささげ願ひし吃巧羹

若きに問へばそれ何と返る

愛知県 仁枝 尚子

瓜絶ちの文月も過ぎ夏盛り

入道雲肘傘の雨

東京都 白石 雅彦

去年^{こぞ}の秋隠れし影を慕ひつ、

瓜に脚挿す幼子の盆

京都市 朝比奈栄子

【評】縄文時代には渡来し栽培されていた身近な植物。万葉集に「瓜はめば子ども思ほゆ」と詠まれたように、現代でも思ひ出と結びついている方が多いようである。

九月「待宵」

宵待ちて老いの一人居うらぶるも

虫のすだきに心なごめり

福井県 武曾 豊美

リハビリの病棟脇の草むらに

待宵草は静かに咲きぬ

大阪府 村島 麗門

心して育てし萩の花咲きて

待宵満月もてなしそうろう

愛知県 鈴木 幸子

待宵のつれづれしのぎに一首でも

出来ぬものかと練ってみるわれ

岐阜県 波多野千寿子

待宵の月見る人の帯姿

みな麗しき京の大橋

京都市 若狭 静一

待宵のくれゆく堤咲く花の

上渡りゆく雁が音のわれ

愛知県 仁枝 尚子

待宵と聞くのみにてぞ嬉しかる

近づくときを思ひうかべつ

京都府 今井 輝子

秋風に揺れる水面の月の影

待宵長し君の黒髪

東京都 白石 雅彦

秋風に誰を待つやとひと問はば

ただ月待つと言ふはさらなり

京都市 朝比奈栄子

君を待ち野辺に出づれば愛おしや

花も月待つ秋の宵かな

長岡京市 智野利恵子

【評】今年は特別な月が何度も見られたが、「待宵」を楽しんだ方もおられたらうか。待宵は、十五夜の前日、つまり八月十四日の夜のこと。「待つ」時間は、来る時を一層豊かにしてくれる。

● 献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

重要文化財

「絹本著色舞楽図」(一)

国の重要文化財に指定されている「絹本著色舞楽図」は、以前の社報でその修復に注目しつつ紹介したことがあるが(社報三二八)、今回は、近年この「舞楽図」を詳細に検討された泉武夫氏の研究成果(『北野天満宮「舞楽図」衝立について』『美術史学』二九、二〇〇八年)に主によりながら少し詳細に紹介することにする。

「絹本著色舞楽図」は、両面とも縦一〇四センチ、横一三六センチ。どちらの図とも、絵絹四枚で一画面としている。

泉氏は、製作年代を一三世紀半ばとし、神楽舞の場面は長久二年(一〇四一)二月の後朱雀天皇行幸にちなむ情景を、舞楽・延年舞の場面は、承元二年(一二〇八)三月の北野での一切経にちなむ情景を描いたものではないかとの仮説を提示しておられる。

明治三十(一八九七)年に「国宝甲種参等」に指定され、戦後は昭和二十五(一九五〇)年の文化財保護法の制定にともない、改めて国の重要文化財の指定を受けた。このときの名称は「舞楽図絹本著色衝立障子一基」である。昭和三十九年に修復がなされ、その際、「舞楽図」を良好に保存するため、表裏一基であったものを二基とし、同年五月二十六日付で「絹本著色舞楽図二幀」と名称および員数の変更がなされた。

天満宮 歴史の一齣

京都大学名誉教授

藤井 譲治

「絹本著色舞楽図」は、お宮では「根本障子」と呼び習わしているが、文化九(一一八一二)年の「遷宮記」には「内々陣衝立絵」、嘉永元(一八四八)年の修理銘では「北野宮内陣御衝立」、明治八年の「古文書宝物什器再取調書」では「御衝立障子」、明治四十三年の「宝物台帳は「衝立」とされており、「根本障子」はお宮内での通称であるようだ。



舞楽図(神楽舞図)

またこの衝立は、これまで表を延年舞図、裏を神楽舞図としてきたが、明治八年の「古文書宝物什器再取調書」では延年舞図を「背面図」と注記しており、また泉氏は、「神楽舞図」の左側に「神楽の景」、右側に「輪舞の景」、「延年舞絵(舞楽図)」の左側に「童舞」、右側に「僧舞」が描かれており、全体としては「神楽舞図」の左から「延年舞図」の右側へと場面展開がみられることから、「神楽舞図」を表、「延年舞図」を裏と位置づけようとしておられる。



舞楽図(延年舞図)



新年御祝

大福梅と縁起物の授与



◆頒布開始 十二月十三日(日)午前八時半より

◆初穂料 大福梅 七〇〇円
祝箸 二〇〇円
屠蘇 五〇〇円
守護縄 五〇〇円
縁起物詰合せ 三〇〇円
但し、無くなり次第頒布終了

元旦の祝膳に使われる「大福梅」と新年縁起物の授与が、今年も事始めの十二月十三日から始まる。「大福梅」は元旦に招福息災の祈りを込め、白湯の中に入れて頂く縁起物。平安時代、都に疫病が流行し、病に罹った帝自らも梅干し入りのお茶を飲み、たちどころに平癒されたとの故事により、以来庶民もこれに倣い正月元旦に梅茶を飲み、一年の無病息災と長寿幸福を願ったと伝わる今日に続く信仰である。

また祝箸・屠蘇・守護縄といった新年縁起物も事始めより併せて頒布し、縁起物の詰合せも授与する。



梅の枝「思いのまま」

元旦からの授与

◆頒布開始 平成二十八年元旦より
◆初穂料 一本一〇〇〇円(但し、無くなり次第頒布終了)

一昨年の初天神で約六十年ぶりに復活した招福の梅の枝「思いのまま」を来年も元旦から授与する。

かねてから「剪定された御神木の枝を授与してほしい」との声が崇敬者から強く寄せられており、千五十年大萬燈祭(昭和二十七年)の年に初天神で参拝者に授与していた経緯があったことから、一昨年の初天神で約六十年ぶりに授与を復活させた。

「思いのまま」には、菅公を偲ぶ梅花祭で神前に供える特殊神饌の調製に用いる厄除けの玄米が入ったヒョウタンを取りつけ、家庭に春の訪れと幸せを呼んでほしいとの願いを込めている。



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

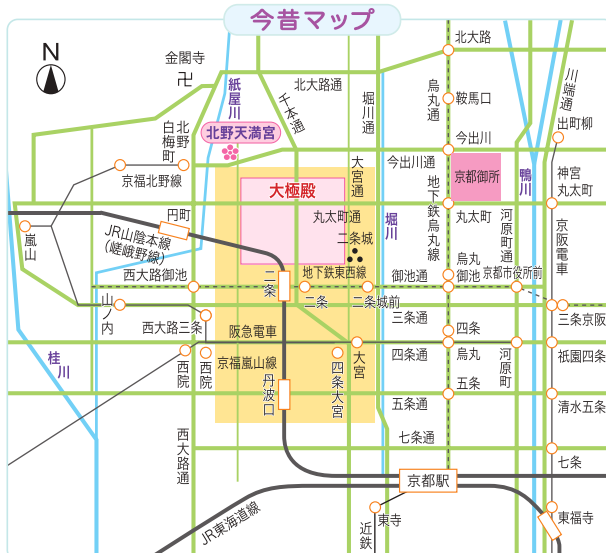
平安京の大極殿(遷都より600年の間)は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

平安京 (大内裏)
大極殿 (室町時代迄の平安京)
京都御所 (室町時代以降)



今昔マップ



御縁日 境内ライトアップ



毎月25日は天神さんの御縁日。夜9時まで境内特別ライトアップ!

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円(1年分) 季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。